

| | | |
|--------|------------------------|-------------------|
| 定例会議資料 | 「自転車安全利用促進月間」の実施結果について | 令和7年7月9日 交通企画課 |
|--------|------------------------|-------------------|

1 自転車関連の交通事故発生状況

| | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7.6末 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全事故 | 2,391 | 2,193 | 1,790 | 1,613 | 1,556 | 1,263 | 1,046 | 943 | 975 | 898 | 371 |
| 自転車事故 | 442 | 376 | 324 | 315 | 329 | 295 | 229 | 202 | 235 | 196 | 73 |
| うち死亡事故 | 6 | 9 | 6 | 7 | 5 | 9 | 5 | 4 | 4 | 1 | 3 |
| うち重傷事故 | 102 | 95 | 69 | 95 | 75 | 66 | 57 | 59 | 47 | 43 | 18 |
| 全事故に占める 自転車事故の割合 | 18.5% | 17.1% | 18.1% | 19.5% | 21.1% | 23.4% | 21.9% | 21.4% | 24.1% | 21.8% | 19.7% |
| 自転車側（1・2当）に 法令違反がある割合 | 85.3% | 80.9% | 85.5% | 89.2% | 83.3% | 89.8% | 84.3% | 91.6% | 87.2% | 88.8% | 84.9% |

2 自転車安全利用促進月間(5月)の取組状況

(1) 推進事項

- ア 基本的な交通ルールの周知と遵守の徹底を図る交通安全教育・広報啓発の推進
- イ 自転車利用者による交通違反に対する指導取締りの強化

(2) 主な行事

- ア ご当地キャラクターによる小学生への自転車交通安全教室（宿毛署）
- イ 自転車交通安全啓発パレード（高知署）
- ウ 自転車等指導取締り強化旬間の実施（県下）

(3) 期間中の指導取締り結果

ア 指導警告

| | 信号無視 | 無灯火 | 二人乗り | 一時不停止 | 通行禁止 | 通行区分 | 携帯電話 | 傘さし | その他 | 合計 |
|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|-----|-----|--------|
| 令和7年 | 85 | 262 | 28 | 586 | 48 | 1,181 | 130 | 32 | 351 | 2,703 |
| 令和6年 | 104 | 391 | 16 | 794 | 145 | 1,561 | 291 | 113 | 308 | 3,723 |
| 前年同期比 | -19 | -129 | 12 | -208 | -97 | -380 | -161 | -81 | 43 | -1,020 |

イ 検挙

酒気帯び運転、一時不停止など、合計21件（前年7件）

3 今後の取組

(1) 自転車ヘルメットの着用促進

着用率が低調な大人（約17%）と高知市内（約20%）を中心に対策を強化

(2) 自転車違反者に対する交通反則通告制度の導入

ア 自転車の交通ルールと制度変更（R8.4予定）の周知

イ 信号無視等の重点違反を中心に警察官の指示や警告に従わない場合等は検挙

(3) 自転車等交通指導取締対策室の効果的運用

ア 各署が行う指導取締の支援と現場における広報・啓発の強化

イ 交通反則通告制度の運用開始に向けた諸準備

| 定例会議資料 | 交通反則通告制度の改正について | 令和7年7月9日 交通指導課 |
|--|-----------------|-------------------|
| <p>1 交通反則通告制度 運転者が行った一定の道路交通法違反（比較的軽微であり、警察官が現認可能な明白で定型的なもの）について、その行為者が一定の期日までに法律に定める反則金を納付した場合には、その行為につき公訴を提起されず、又は家庭裁判所の審判を受けないで事件が終結される制度</p> <p>2 改正の内容</p> <p>(1) 対象車両の拡大 現行では、交通反則通告制度の対象車両に軽車両は含まれていないが、改正後は自転車をはじめとする全ての軽車両が対象に追加される。</p> <p>(2) 対象となる者の年齢 16歳以上の者</p> <p>(3) 反則金額 自転車等の軽車両の反則金は、法律においてその限度額が、政令においてその額が定められるが、現時点で、その限度額は原動機付自転車と同額とされ、今後、この範囲内において政令で金額が定められる。</p> <p>(4) 施行期日 令和8年4月1日</p> <p>3 自転車利用者に多い違反行為 別添資料参照</p> <p>4 施行後の指導取締り方針</p> <p>(1) 交通ルールの周知に重点を置いた活動 自転車の交通ルールは、未だ多くの自転車利用者に正しく理解されていないため、基本方針として自転車利用者の交通ルールの周知に重点を置く。</p> <p>(2) 街頭活動における積極的指導 自転車の違反行為に対しては、引き続き「指導警告票(イエローカード)」を活用した指導を継続する。</p> <p>(3) 悪質・危険な行為の取締り 携帯電話を使用しながらの信号無視や傘差し運転をしながらの一時不停止など危険性が高い違反、又は警察官の指示に従わず違反行為を行った者に対しては、積極的な取締りを行う。</p> <p>5 交通反則通告制度の改正に向けた準備</p> <p>(1) 取締り要領の改正、反則切符の様式変更</p> <p>(2) 警察官に対する指導取締り要領の教養</p> <p>(3) 自転車の交通ルールの周知に向けた広報活動</p> | | |